

投稿者の方へ

1. 編集の基本方針

「大学入試研究ジャーナル」は、各大学等における特長ある入試研究にもとづく論文、及び全国大学入学選抜研究連絡協議会大会における研究発表論文を収録してきた、大学入試研究専門誌です。本誌の基本的な編集方針は、何らかの点で大学入試研究に貢献できる論文であれば積極的に掲載し、研究交流の一層の推進に資することです。

投稿される際には、別紙の編集規程および投稿規程を必ずご確認ください。

2. 査読の方法

投稿論文は、編集専門委員会が委嘱する 2 名の査読者によって審査されます。査読者の選定にあたっては、原則として

- (1) 2 名のうち 1 名は編集専門委員とします。
- (2) 著者と同一機関あるいは同一研究グループに属する方は除きます。

査読にあたっては、①オリジナリティ、②入試研究への貢献、③内容の論理的・一貫性、④結論等の妥当性・合理性、⑤文章や図表類の明快さ、⑥原稿執筆ガイドの遵守、の 6 つの観点から主眼を置かれますので、まずは著者自らがこれらの観点から原稿を見直し、十分完成させたうえで投稿してください。

③では、著者の問題意識や研究目的に沿って、研究方法の選択、結果の提示、解釈や考察等が論理的な一貫性をもってなされているかが評価されます。④では、結論等に著者の思い込みや論理的飛躍がなく、十分な根拠に基づいた妥当性・合理性があるかが評価されます。

3. 査読結果の通知など

2 名による査読結果は、著者への具体的なコメント等も含めて編集専門委員会に報告されます。編集専門委員会では、査読結果をもとに、著者の希望する投稿区分において「掲載可」「保留」「掲載不可」のいずれかの決定を行うとともに、査読者からのコメント等を著者に回送します。修正が必要な場合には修正期限を付して連絡しますので、必ず期限までに、各査読者の指摘事項への対応を記した文書を付して修正稿を提出してください。なお、査読結果が大きく分れた場合には第 3 の査読者を依頼し、編集専門委員会が総合的に結果を判断します。

4. 掲載取り消しの処置等

掲載の決定後に、投稿規程 6. に反していることが判明した場合や、論文内容に重大な事実誤認等が判明した場合には、論文取り下げの勧告や掲載取り消しの処置を行うことがあります。

以 上

大学入試研究ジャーナル編集規程及び投稿規程（2025年1月改訂）

【編集規程】

1. 本誌は、独立行政法人大学入試センター理事長が委嘱するところの、全国大学入学者選抜研究連絡協議会編集専門委員会のもとで編集を行う。
2. 本誌は、各大学等における特長ある入試研究に基づく論文、及び全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会における研究発表にもとづく論文を収録する。本誌は大学入試研究専門の電子ジャーナルとして年1回発行し、大学入試センターのホームページ上で公開する。
3. 投稿期間や投稿方法の詳細は大学入試センターのホームページ上で告知する。なお、全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会での研究発表者には、編集専門委員会から投稿案内を送付する。
4. 投稿された論文は、著者名を伏せずに編集専門委員及び審査協力者による匿名の査読を行い、「原著論文」「資料」または「ノート」として掲載の可否を決定する。「原著論文」は、入試に係る独創性のある学術的に有意義な考察と明確な結果を備えたものとする。「資料」は、既存の知見を補強する事例・データの呈示、事例のまとめ等を主な内容とするものとする。「ノート」は、既に公開された研究に対する追加・補強、比較的報告事例が少数で一般的に関心の高い事例の報告、萌芽的発想の提案などを著したものとする。
5. 掲載の決定後に、下記投稿規程6. に反していることが判明した場合や、論文内容に重大な事実誤認等が判明した場合には、論文取り下げの勧告や掲載取り消しの処置を行うことがある。

【投稿規程】

1. 投稿の際は、「原著論文」「資料」「ノート」のうちから、審査を希望する種別を明示する（複数でも可）。なお、「原著論文」のみを希望種別とする場合、他の種別での審査は行わない。
2. 原稿の分量は、いずれの種別においても刷り上がり最大8ページとする。審査の過程で加筆を求められた場合でも8ページ以内に収めるものとする。
3. 原稿の書式は、A4版縦置き・横書き、24字×46行×横2段組で作成する。
4. 原稿は和文・英文のみ可とする。和文原稿には和文要約（200～300字程度）を、英文原稿には英文要約（100～150 words 程度）を付す。
5. 執筆要領は、「大学入試研究ジャーナル原稿執筆ガイド」を参照すること。
6. 原稿の執筆にあたっては、以下に示すような倫理的な要請を満たしているかについて、所属機関における倫理委員会等の承認を得る、もしくは著者全員による十分な確認を行うこと。
 - 研究参加者による研究協力への同意
 - 研究参加者に対するプライバシーの保護（匿名性の保証）
 - 捏造、改ざん、盗用はもとより、著作権の侵害やギフトオーサiershipなどの無いこと
 - 二重投稿の無いこと
 - 不適切、差別的な用語や表現の無いこと
 - 利益相反状態の無いこと
7. 投稿にあたっては、電子ファイル（PDF形式）を提出すること。ただし、掲載が決まった段階で、図表等を含め元データの提出を求めることがある。
8. 査読結果をふまえた修正稿を送付する際には、各査読者の指摘事項への対応を記した文書を付すこと。
9. 掲載論文の著作権は、大学入試センターに属するものとする。ただし、著者が出典を明示したうえで再利用することを妨げない。
10. 問い合わせ先：

〒153-8501 東京都目黒区駒場 2-19-23

独立行政法人大学入試センター 試験企画部試験企画課

電話：03-5478-1216 メール：nyukenkyo@cen.dnc.ac.jp

大学入試研究ジャーナル原稿執筆ガイド

——体裁の統一を目指して——

鈴木 一郎，山田 花子（入研協大学），岡田 太郎（東京美術大学）

ここに要約を 200～300 字程度で記入する。論文題目は明朝体 16 ポイント太字，副題がある場合は明朝体 12 ポイントで前後に 2 倍ダッシュ「——」を入れる。著者名は題目の後に空白行を一行入れ，氏名（所属）の形式で記入する。著者が複数の場合は全角コンマ「，」で区切る。所属が同じ場合は，最後の著者名の後に所属を記す。特に指定がない限り，本文のフォントは明朝体 10.5 ポイントとする。なお，このページのヘッダーに，審査を希望する論文種別を示すこと。

キーワード：ここに，3～5 個のキーワードを全角コンマ「，」で区切って記入する。

1 本文の体裁

1.1 字数、行数と枚数

本文は A4 判に 2 段組で 24 字×46 行，枚数は刷り上がりで最大 8 ページとする。ただし，最初のページは論文題目と要約が入るので，30 行程度となる。審査の過程で加筆を求められた場合でも 8 ページ以内に収めるものとする。

1.2 ページ余白

ページの余白は上下 30mm，左右 20mm とする。

1.3 見出し

1.3.1 番号のつけ方

大見出しは「1」，中見出しは「1.1」，小見出しは「1.1.1」の形式で番号を振る。最後の番号にはピリオド「.」をつけない。番号と各見出しの間は半角スペースを空ける。

1.3.2 フォント

大見出しと中見出しは**太字ゴシック**，小見出しは**ゴシック**とする。大きさは本文と同じ 10.5 ポイントとする。

1.4 本文の記述

1.4.1 フォント

本文のフォントは明朝体 10.5 ポイントとする。ただし，欧文および算用数字のフォントは Century 10.5 ポイントとする。

1.4.2 全角と半角

和文を書くときはカッコなどの記号もすべて全角と

する。半角カナは使わない。

1.4.3 句読点

句点は全角の「。」を，読点は全角の「，」を使う。

1.4.4 算用数字と漢数字

横書きの文章なので，数字は原則として算用数字「1，2，3…」を用いる。ただし，「第一歩」「一生」など漢数字を使わないと不自然な場合は漢数字を用いる。

2 注と引用

2.1 注

注をつける場合は，本文の該当個所に半角の上付き文字で ①と番号を振る。注の内容は，本文の後，文献リストの前にまとめて記載する。

2.2 引用

2.2.1 原則

本文中で文献に言及する場合は，原則として，著者名（出版年），または（著者名，出版年）の形式にしたがうこと。後者の場合，著者名と出版年の間に半角のカンマおよびスペースを入れる。たとえば，Russell による 1991 年の文献の場合，（Russell, 1991）とする。

インターネット上の資料を引用する場合は，著者名，掲載日（掲載年のみも可。不明のときは n.d. と記載）とする。たとえば，大学入試センター（2011 年 2 月 3 日）あるいは大学入試センター（2011）とし，掲載年不明のときは大学入試センター（n.d.）とする。文献リストには，著者名，掲載日（あるいは掲載年，あるいは

n.d.)，資料題名，サイト名（入手先），URL，（閲覧日）を記入する。具体例はこのガイドの最後に示してある。

2.2.2 引用する場合

文献から直接引用する場合，必ずページ数を明記する。ページ数は出版年の後に半角コロンと半角スペース「:」で区切り記載する。

（山田, 2002: 55）

2.2.3 さまざまなケースの表記法

複数の文献に言及する場合は半角セミコロンと半角スペース「;」で区切る。

（岡田・佐藤, 1989; Clark, 1985）

同一著者による複数の文献を参照する場合は，各文献の出版年の間は半角コンマと半角スペースでつなぐ。

（見田, 1996, 2006）

同一著者による同じ出版年の文献が複数ある場合には，出版年の後に半角アルファベットを順につけて区別する。

（鈴木, 2000a, 2000b）

共著の場合は邦文文献ならナカグロ「・」で，英語の場合はandでつなぐ（その他，ドイツ語ならund，フランス語ならetなど）。ただし3名以上の場合はファーストオーサーのみ記載し，「ほか」「et al.」をつける。

（岡田・佐藤, 1989）

（Treiman and Yamada, 1993）

（内田ほか, 2014）

（Lane et al., 2016）

訳書の場合は（原著者名，原書の出版年 訳者名 訳書の出版年）の形式で記載する。

（Trow, 1961 天野訳 1981）

韓国語，中国語など和文・欧文以外の文献については著者名をカタカナ，漢字あるいは欧文で表記する，たとえば，（イムジンテク, 2012）のように。ただし文献リストには，もとの文献との対応がつくように工夫する。たとえばハングル表記も併記する，あるいはDOIを示すなど。

2.2.4 文献リストの書き方

本文で言及または引用した文献のみを，**注**の後に1行空けて**参考文献**という見出しに続けて，和文・欧文にかかわらず，著者の姓のアルファベット順に記載する。なお，雑誌論文の巻号は，巻数に続けて半角丸カッコ内に号数を記載する。ただし，巻ごとに通しページ番号がある場合は号数を省略してよい。具体例はこのガイドの最後に示してある。フォントサイズを9ポイントとする。

3 図表

3.1 図表番号の付け方

図・表別に通し番号を振る。図のキャプションは図の下に，表のキャプションは表の上につけ，番号とキャプションの間は半角スペースを空ける。キャプションはセンタリングする。

3.2 表示方法の例

3.2.1 表の場合

表1 センター試験志願者数・受験者数の推移

	志願者数	受験者数
1990 年度	430,542	408,350
1992 年度	472,098	445,508
1994 年度	531,177	498,729
1996 年度	574,115	534,751
1998 年度	597,271	549,401
2000 年度	581,958	532,797
2002 年度	602,090	553,465

注）表の注がある場合にはここに書く

3.2.2 図の場合

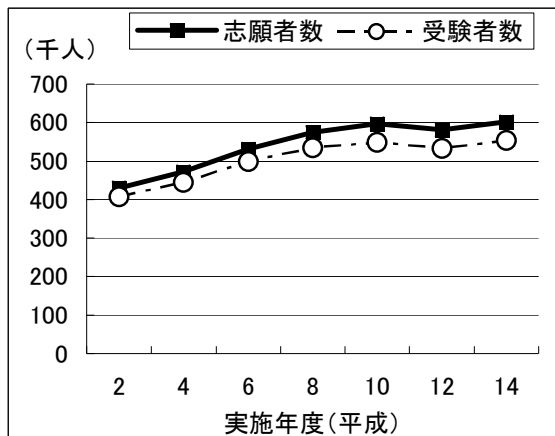


図1 センター試験志願者数と受験者数の推移

注) 図の注がある場合にはここに書く

図や表は、マーク、線種、背景色など工夫し、モノクロ印刷でも判別できるように配慮することが望ましい。また図の解像度や字の大きさにも配慮し判読できるようにすること。

注

- 1) 注は本文の後、文献リストの前に、本文で言及した番号順に記載する。
- 2) 本文と注の間は1行空け、注と文献リスト（参考文献）の間も1行空ける。
- 3) フォントサイズを9ポイントとする。

謝辞

必要ならば注と文献リスト（参考文献）の間に前後1行空けて書く。フォントサイズを9ポイントとする。

参考文献（文献のフォントサイズを9ポイントとする）

- Clark, B. R. (1985). *The School and the University: An International Perspective*, University of California Press.
- 大学入試センター (2011年2月3日). 「平成23年度大学入試センター試験志願者数及び受験者数等」 大学入試センター https://www.dnc.ac.jp/sp/data/shiken_jouhou/h23/shiganshasu_data/shigansha_jukenshasu.html (2019年2月26日).
- 池田 央 (1999). 「試験方法の技術革新」 柳井晴夫・前川眞一 編『大学入試データの解析：理論と応用』現代数学社, 254–263.
- Lane, S., Raymond, M. R., and Haladyna, T. M. (eds.) (2016). *Handbook of Test Development* (2nd ed.), Routledge.
- Mare, W. (1999). “University Entrance Examinations in 15 Countries,” *Journal of International Education*, **50**(1), 156–189.
- 見田宗介 (1996). 『現代社会の理論：情報化・消費化社会の現在と未来』岩波新書.
- 見田宗介 (2006). 『社会学入門：人間と社会の未来』岩波新書.
- 中島直忠 (1986). 『世界の大学入試』時事通信社.
- 岡田太郎・佐藤春夫 (1989). 「『英語』試験問題の出題形式に関する比較研究」『大学入試センター研究紀要』**20**, 1–20.
- 鈴木一郎 (2000a). 「推薦選抜における評価の妥当性と信頼性」『入研協大学紀要』**30**, 105–129.
- 鈴木一郎 (2000b). 『大学入試多様化の現状』入研協出版.
- Treiman, K. and Yamada, D. (1993). “Trends in Educational System in Japan,” in Y. Shavit and H. P. Blossfeld (eds.), *Persistent Inequality: Changing Educational System*, Westview Press, 229–250.

- Trow, M. (1961). *The Second Transformation of American Secondary Education*, Oxford University Press (天野郁夫訳(1981).『アメリカ中等教育の構造変動』東京大学出版会).
- 内田照久・橋本貴充・鈴木規夫 (2014). 「18歳人口減少期のセンター試験の出願状況の年次推移と地域特性—志願者の2層構造化と出願行動の地域特徴—」『日本テスト学会誌』**10**(1), 47–68.
- 山田花子 (2002). 「本学入学者の『理科』入試得点と高校での履修状況の関連——入研協大学の場合」『大学入試研究ジャーナル』**12**, 50–56.
- https://doi.org/10.57513/dncjournal.12.0_50